

デザイン学科1年 H.A.

## 2022年7月9日 見学会ブログ

見学会を通して、木に関わるさまざまな方の思いを感じることができました。普段は商品となって売っているものを見るのがほとんどなので、この見学会を通して消費者という立場ではなかなか見ることのできない現場を見させていただいて、とても貴重な経験となりました。

見学会を通して一番印象に残っていることは、年輪の量や節の有無、少しの木の曲がりです。その木材の価値が大きく変わってしまうということです。以前は木材がそこまでデリケートな価値基準のものであるとは知らず、木の価値はどれも大差ないものだと思っていました。しかし、こまめな枝打ちなどの努力や正しい価値で取引が行われてほしいという思いを知り、今までの私がいかに林業に対して無知だったのかが分かりました。

また、木の選別が人の手で行われていたことも印象深いです。素人目では木の曲がりどころか木の種類すら見分けがつかなかったのですが、担当の方が流れてくる木材を次々と選別しているところを見てとても驚きました。選別という作業は機械で測ってするものだと思っていたので、林業が人の手で作られている産業なのだということが改めて分かりました。

渥美さんのお宅に伺った際に、渥美さんがお宅のデザインや使われている木材のことをとても誇らしげにお話くださったこともとても印象的です。私たちは当たり前のように木のある暮らしをしていますが、良い木材を使い、そしてその木材の真の価値を知ることこそ、木と関わる生活をより良いものにするのだと思いました。

木のことを知る上で、専門の方の話聞くことや、実際に見たり触ったりすることがとても大切だと感じました。日常で木材を使った商品に触れることは多いですが、その木がどこのものでなんという種類なのか、誰の手でどのように作られたものなのかということを知る機会はほとんどないように感じられます。私自身、丸太市場で木材の価値について教えていただいたり、製材所で実際に木を持たせていただいたりといった経験があって初めて、木材の商品がいかに多くの人の努力や思いの上に成り立っているものなのかと考えるようになりました。

知ることとは豊かにすることだと思います。知ることによって、自分自身はもちろん、社会や経済、生活、国全体を豊かにすることに繋がられます。私自身完全に木材のことを知ったとは言い難いですが、今後の活動を通して、自分の知識も深めつつ、より多くの人に少しでも木材のことを知ってもらい、豊かにすることに繋がってほしいと思いました。